

平成28年度「専修学校版デュアル教育推進事業」  
医療事務における効果的な連携事業を行うための  
ガイドライン作成

## 医療機関インタビュー調査(中間)報告 医療機関(病院)視察調査

1. 実習前の受入体制
2. 実習業務体制
3. 学習効果・成果を活かす実習検討項目

平成29年2月3日(金)

平成28年度「専修学校版デュアル教育推進事業」  
医療事務における効果的な連携事業を行うための  
ガイドライン作成

## 医療機関インタビュー調査(中間)報告 医療機関(病院)視察調査

### 視察調査

期間 : 平成28年12月7日～21日

調査数 : 全14医療機関

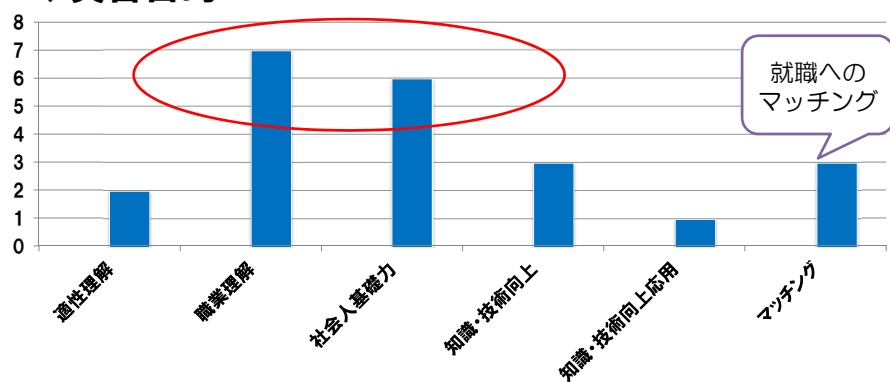
7地区(岡山・富山・高崎・郡山・長野・松山・福岡)

## 1. 実習前の受入体制

3

### 【実習前の受入体制について①】

#### ◇実習目的



#### 【実習目的】

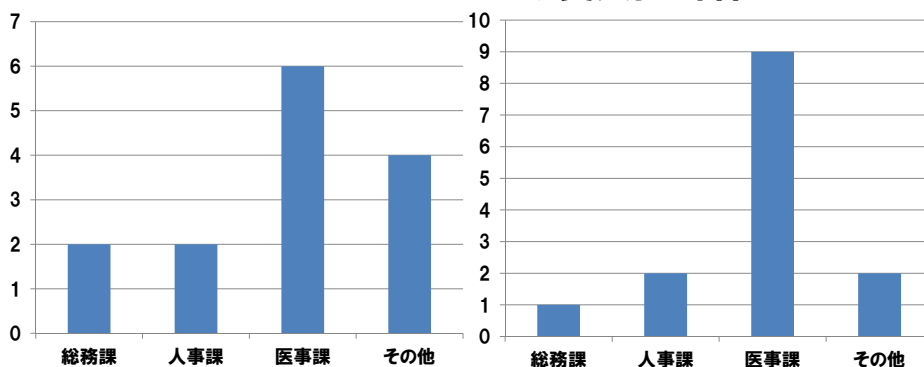
職業を理解することや社会人基礎力の向上を目的としていると回答した医療機関が多く見受けられた。

※「職場体験型」として受入れをされている医療機関が大半をしめ、学習知識・技術向上応用は回答数1となる。

4

## 【実習前の受入体制について②】

### ◇打ち合わせ参加（医療機関） ◇受入担当者



#### ●打ち合わせについて

【時期】 1か月前後としている医療機関が14医療機関中10医療機関

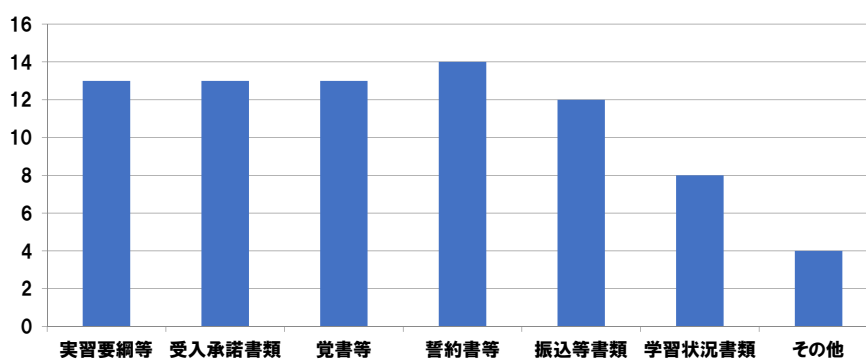
【学校側打ち合わせ参加】 医療機関に先生から電話連絡後、実習生と先生と参加

【医療機関側打ち合わせ参加】 医事課が半数近くを占める

その他については、庶務課や経理課などがあつた。

## 【実習前の受入体制について③】

### ◇医療機関・専門学校間取り交わし文書

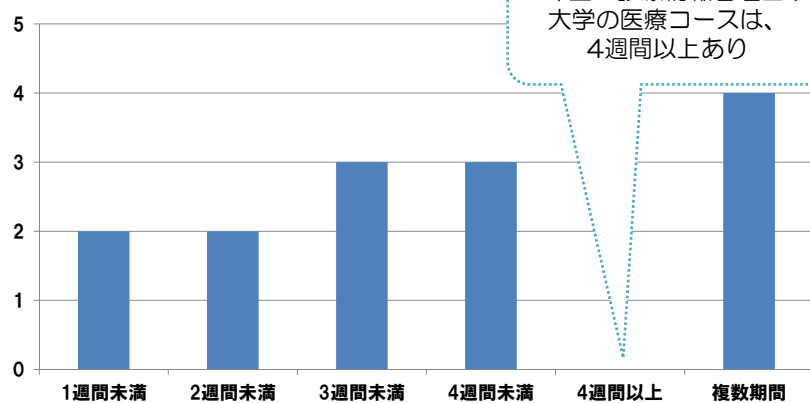


多くの医療機関が、専門学校提示の書類として上記グラフの書類の取り交しを実施している。

その他の書類としては、総合評価表、学生の履歴書、自己紹介状のほか、**感染症の抗体価を示す書類、予防接種履歴証明**に関する書類などがある。

## 【実習前の受入体制について④】

### ◇実習期間



#### ●実習期間

①1, 2週間の短期間実習グループと②3, 4週間の長期間実習グループに分類される。

※学年により実習期間に差を設けている医療機関も見られた。

(例：1年生は1年終了後の春期の2週間前後、2年生は春期や夏期長期等)

※学校の希望により複数の実習期間を設けている医療機関は、全体的に②3, 4週間の長期間が多く見られる。

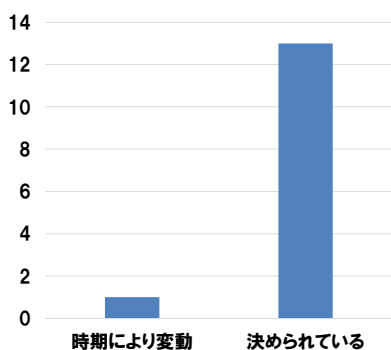
7

## 2. 実習業務体制

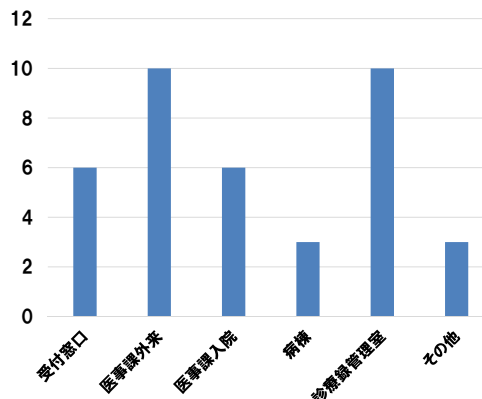
8

## 【実習中受入の体制①】

### ◇実習受入部署の有無



### ◇実習受け入れ部署



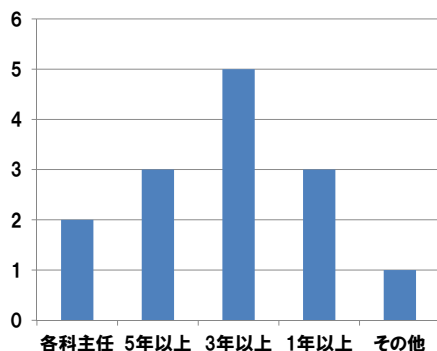
#### ●実習開始後の受け入れについて

受け入れ部署については、14医療機関中13医療機関が決められていると回答している。具体的な部署については、医事課外来、診療情報管理室、受付窓口、医事課入院が多くなっている。その他としては、庶務課、人事部、医事企画課、医療秘書課、健診ドック課等も実習部署に加えられている。

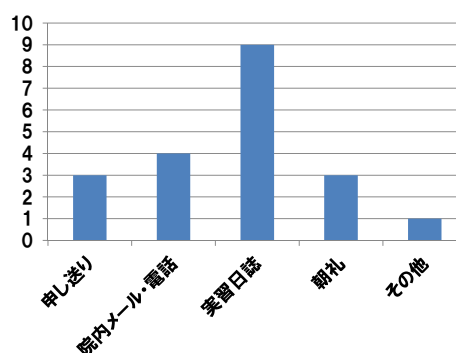
9

## 【実習中受入の体制②】

### ◇実習指導者の経験年数



### ◇部門間の情報共有



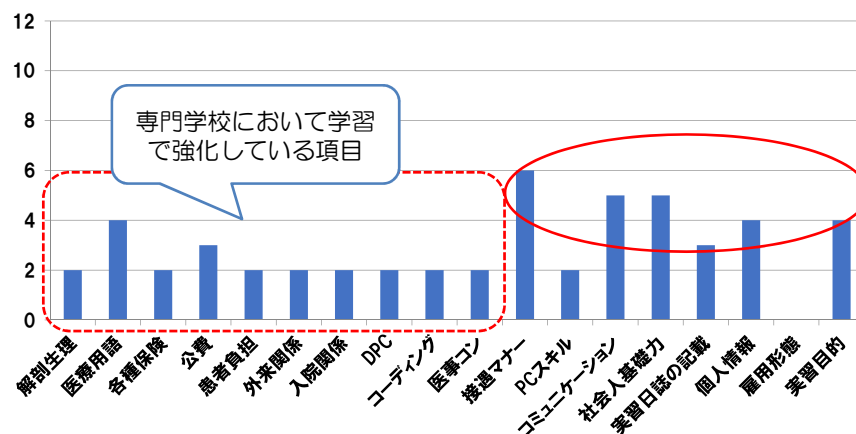
**【実習指導者】** 経験年数3年以上の職員を担当とする医療機関が多いが、経験年数1、2年の職員が担当することにより、若手職員に指導経験を積ませることを実習のメリットとしている医療機関も多くあった。

**【部門間情報】** 実習期間中の申し送りは、学生の実習日誌の記載により実施している場合が多い。

10

## 【実習中の業務と学習①】

### ◇実習内容に対して学習不足と考えられる内容

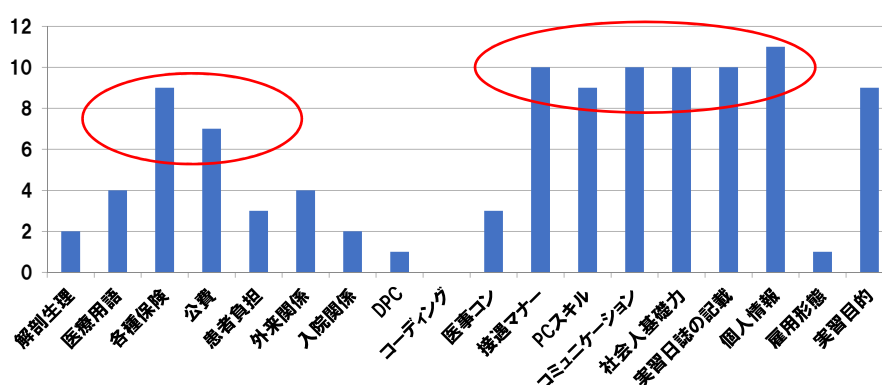


①医学領域 ②医療保険領域 ③診療報酬領域 ④接遇他領域の領域別では、④接遇他領域を学習不足としている医療機関が多く見られた。その他の領域間では、大きな差異は見られなかった。(全回答 52ポイント)

11

## 【実習中の業務と学習②】

### ◇実習前習得が必須と考える科目



一方、実習前の習得が必須と考える科目としては、

②医療保険領域の各種保険や公費の内容、

④接遇他領域のほぼ全項目（雇用形態以外）について、

必須と考える医療機関が多く見られた。(全回答105ポイント)

回答ポイント数より、現状の実習カリキュラムにおいては、学習不足は感じられないが、現場で働く上で習得しておいて欲しい内容の要望がより多くあると言える。

12

### ◇実習医療機関内カリキュラム

- ①週ごとに実習内容をローテーション(9医療機関)
- ②学校側の希望を聞きながら、両者で相談(2医療機関)
- ※具体的な業務内容については特にカリキュラム設定をしていない窓口等  
体験型実習が多い

### ◇実習受入れによるメリット

- ①職員の振り返りができる。意識向上やスキルアップにつながる(11医療機関)
- ②日々の業務改善、職員の指導力を把握できる  
新人教育のノウハウの蓄積(5医療機関)
- ③就職採用、良い人材採用につながっている(4医療機関)
- ④自院のことを地域に知ってもらえる  
学校との連携による情報収集(1医療機関)

### ◇実習受入の問題点

- ①職場体験が受入目的として、学習成果(知識)等の現場参画型ではない
- ②評価基準についても、行動評価(コミュニケーション評価)が大半となっている
- ③実習期間、限られた日数の体験として参画型まで到達が難しい
- ④医療機関の規模により行う実習内容に相違がある

13

## 3. 学習効果・成果を活かす実習検討項目

14

### ◇今後の実習を効果的に行うための検討項目

<参画型実習成果と充実するために>

- 医療に携わる事務部門も多岐の部門に分かれ、業務セクションごとに実習に関連する具体的実習内容の項目の検討が必要と考えます。
- 業務セクションに伴う具体的実習項目を策定することにより、医療機関規模により実習受入を選択できる項目の検討も必要と考えます。
- 実習内容と学習成果（知識含む）の整合性があるか否か、実習内容の項目の検討が必要です。
- 実習内容、学習効果、成果、問題点が明確にできる評価項目（評価基準含め）の統一が必要と考えます。
- 実習成果を医療機関にフィードバックし、実習後、改善点を反映し活かす学校教育の検討が必要と考えます。
- 医療機関、教育機関が統一したガイドラインを基に、参画型実習、実学を通し就職（社会人）前の育成・意識づけに繋がることもメリットと考えます。

15

### ◇医療機関現場職員が就職後、医療事務職に求めるスキル

- ①コミュニケーション能力
  - ・社会人としての基本、社会常識
  - ・会話力、接遇スキルの習得
  - ・医師等医療スタッフへの積極的アプローチ
- ②医療に関する知識（学習）
  - ・施設基準に関する知識
  - ・病院経営に繋がる知識・発想
  - ・診療報酬の知識・医療保険制度の理解
  - ・社会保障制度の理解
  - ・医療用語の理解
- ③その他
  - ・データ管理、分析能力、適応力。
  - ・電子カルテに伴うPCスキルの向上
  - ・提案能力 ・文章能力
  - ・病院の特色や規模、理念や基本方針等の理解

#### 専門職の学習

①専門学校  
学習・教育

②実習医療機関  
体験・学習

③実習後  
学習成果・効果  
反映・改善  
意欲・希望・期待

16